

桜蔭俳話会 七月句会(第二八五回)

令和二年七月二十五日(土)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

推薦句

草いきれものともせず測量士 潤子

添削案

測量の靴のづかづか草いきれ

晩学の時に迷走罌粟坊主 才美

添削案

晩学のときに迷走罌粟坊主

葉に残る雨の匂ひや青葡萄 友子

添削案

葉に余る雨の匂ひや青葡萄

愚直なるままに生きをりねじり花 直子

六月の雨音黙読の呼吸 才美

添削案

六月の雨黙読の深呼吸

短夜や鶏冠押しくる若冲絵 才美

添削案

若冲の絵に鶏冠では安易か

岬まで標は五分草いきれ 才美

添削案

岬へと標に五分草いきれ

要推敲句

梅雨湿り一枚の絵の艶のなし ヤエ子

添削案

艶のなき絵の一枚や梅雨湿り

端居するヒップホップと夕風と 秀夫

添削案

端居するヒップホップや起きやうか

空輸基地へり旋回す雲の峰 明美

添削案

空輸基地へりの旋回雲の峰

ワサビ田に川の流れと草いきれ 和幸

添削案

棚田より水の匂ひと草いきれ

取るに足らぬひと日過ぎけり蚊遣香 友子

添削案

無聊なるひと日過ぎけり蚊遣香

老猫に先をこされし籐の椅子 邦子

添削案

老猫に先をこされし籐寝椅子

冷酒が胃の腑に沁みる快気祝 眞壽

添削案

冷酒の胃の腑に沁みる夕餉かな

新宿のコロナ禍の記事水中花 直子

添削案

新宿のコロナの渦や水中花

節くれ立つ指に来し方涼しかり 才美

添削案

節くれの指に来し方涼しかり

空向いて咲く芥の中の花南瓜 ヤエ子

添削案

宙向きて芥の中の花南瓜令和2年7月句会.docx

コロナ伴ひ米軍基地のサングラス 明美

添削案

コロナ禍の基地のゲートやサングラス

一舟の漕を眼下に夏料理 才美

おさまり過ぎている・新鮮味なし

幼なき頃の記憶を辿る水羊羹 眞壽

添削案

甦る母の記憶や水羊羹

安曇野の風はながれる草いきれ 和幸

添削案

安曇野の風はゆるやか草いきれ

草いきれ子供の遊具忘られて 眞壽

添削案

忘れたる遊具の二つ草いきれ

蘭鑄やベルト緩める昼餉あと 秀夫

添削案

蘭鑄やベルト緩める穴二つ

空蟬や魂ころんと星になる 才美

添削案

魂ころんと星になる、では季語の説明！

草いきれ終息見えぬコロナの禍 邦子

添削案

草いきれ終はりの見えぬコロナの禍

床上の泥を掃きたり草いきれ 秀夫

添削案

床上の泥は異物や草いきれ

(不在投句 古野明美、杉本和幸、弘友秀夫、  
京林眞壽、向田潤子)